

鏡川流域パートナーシップだより No.53 R5.5.24



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

「いきもの発見 in 鏡川！」のイベントで鏡川の水生生物を調査！

5月21日(日)に「いきもの発見 in 鏡川！」のイベントを開催しました！(主催：高知市工石山青少年の家 共催：高知市新エネルギー・環境政策課)当日は高知市内在住の9名の子どもたちが参加し、鏡川の上流・中流域で水生生物調査を実施しました。子どもたちは、ひんやりとした鏡川の水に触れ、様々な水生生物を捕まえて観察しながら、自然の中で楽しく過ごしていました。

●中流域 (行川)



網を構えて、川の中に出発！子どもたちは、エビやオタマジャクシ、カワゲラなど、多様な水生生物を次々と発見して大はしゃぎ。「大きいカニがおった！」「小さい魚があっちに行った！」など、子どもたち同士で声を掛け合いながら、多くの水生生物を捕まえていました。その後、捕まえた水生生物を種類別に水槽に入れ、工石山青少年の家の職員さんの解説を聞きながら全員で観察会を行いました。自分たちで捕まえた多様な水生生物がずらりと並ぶ光景は、まさに「鏡川水族館」！鏡川に棲む生き物の多様性を知る貴重な機会になりました。

●上流域 (土佐山高川)



上流域の鏡川源流憩いの広場に移動し、昼食を食べたあと、鏡川に入って水生生物調査開始！中流に比べると水生生物の数が少なく、子どもたちは苦戦していましたが、岩底や植物の陰を網でガサガサと突いて、水生生物を捕まえていました。また、地元の釣り名人がカワムツやウグイ、アメゴなどを釣る姿に子どもたちは夢中になっており、網を構えて釣った魚を確保したり、釣った魚を水槽に移動させる作業を率先して引き受けたりと、川遊びを存分に楽しんでいました！上流域でも、捕まえた魚や水生生物を並べて観察会を行い、中流の水生生物との違いを把握しました。

【5/21いきもの発見in鏡川の参加者限定】イベントの写真をお送りします！
●-200 お釣り
●鏡川流域パートナーシップ
●0人が利用

【5/21いきもの発見in鏡川の参加者限定】イベント参加記念にぼっちりプレゼント
●+300 もらう
●鏡川流域パートナーシップ
●0人が利用

まちのコイン「ぼっちり」で、イベント当日の写真を送付したり、釣り名人から釣りのコツを教わったりする内容の体験チケットを発行しています。参加した子どもたちの保護者の方はこの体験を利用して、イベントをきっかけに、日常的に鏡川に関心を寄せています！



【5/21いきもの発見in鏡川参加者限定】簡単に釣れる川釣りレクチャー
●-350 お釣り
●みんなの鏡川水族館

鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつながる山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android

